

第47回国土地理院報告会

発表課題名	会場での質問	回答
ビッグデータを活用した登山道修正の取組	<p>ビッグデータの位置精度検証で槍ヶ岳の事例について、使用したAndroidスマートフォンの機種は何か。</p> <p>登山道の修正には、何人分のデータを使用しているのか。また、今後、利用の少ない登山道の修正では、およそ何人分のデータがあれば修正できると考えているのか。</p>	<p>槍ヶ岳の事例では、複数の機種のAndroidスマートフォンが使われている。すなわち、特定の機種に限定していない。</p> <p>今回修正した範囲では、約300～400人分のデータを使用した箇所が多く、少ないところでも約100人分のデータを使用している。また、利用者が少ない登山道の修正は、100人程度以上のデータがあることを目安としているが、該当箇所の状況により判断している。今後ノウハウを蓄積しながら効率的な修正方法を確立していきたい。</p>
被害状況を一刻も早く把握し、分かり易く提供するための取組	<p>イラン・イラク地震について、干渉SARの解析結果をイラン当局に提供したところ、有効な情報であったという評価を得たとの報告でしたが、具体的にどのように有効だったか詳細に教えていただきたい。例えば、地震のメカニズムの解明に有効であったとか、防災とか実務上に何らかの参考になったとか。</p>	<p>これらの解析結果については、イラン国立地図センター(NCC: National Cartographic Center of Iran)に迅速に提供を行った。その情報提供に対して、「災害の全体像が見えない初期段階において、イランの災害対応局が災害対応のためのリソース(救援物資、救助隊など)をどこに投入すべきかを判断する材料として役立った」として、NCCから感謝の意が表された。詳細については、下記URLを参考としていただきたい。 URL: http://www.gsi.go.jp/cais/topic171115-index.html</p>
地形を知って自然災害に備える -地形に刻まれる災害の爪痕-	<p>紹介された赤色立体地図はズームレベルでどこまで対応しているか。</p> <p>過去の状況と今回の災害を深くすることで、現状が把握できたと思うが、この結果を未来にどのように役立てるか。具体的には、防災にどのように役立てることができるか。国土地理院のHPに紹介しているだけでは弱いように思うが、どのように考えているか。</p>	<p>赤色立体地図は、日本全国ズームレベル16まで見ることができる。赤色立体地図の解像度は10m解像度である。</p> <p>御指摘の点は今後の検討課題になるが、リスク情報として一般市民に提供していくことも必要であると思っている。</p>
「地図の利用手続のあり方検討部会」の検討状況について	<p>旧版地図を地理院地図で閲覧可能にすることはお考えか。</p>	<p>旧版地図を地理院地図に掲載してほしいというニーズは把握している。一方、昔の地図においては、地名等の表記について、今日目で見ると必ずしも適切ではないものが含まれている可能性があり、現状ではWebページからの公開を見合わせているところ。</p>
準天頂衛星システムが実現する高精度測位社会を支える電子基準点	<p>-----</p>	<p>-----</p>
明治以来の標高の仕組みを大転換 -いつでも・どこでも・誰でも信頼できる標高が使える社会へ-	<p>ジオイドが変わると山の標高が変わるか。</p>	<p>新しい仕組みに変更した場合には標高は再計算することになるため、厳密に言えば山の標高が変わる可能性があるが、山の標高はメートル単位で公表されており、ただちに公表値が変わるわけではない。標高の変化量の評価や、その影響を踏まえた適切な移行手順等の検討については今後進めて参りたい。</p>
GNSS観測から高時間分解能で地殻変動を捉える -精密単独測位法による電子基準点キネマティックGNSS解析システム-	<p>講演で紹介のあったシステムは精度が高いようだが、測量に使えないか。</p>	<p>本システムは電子基準点による地殻変動の監視を目的として、電子基準点の位置の変化を正確に捉えることを主眼に開発を行ったものである。測量に用いるためには、位置の変化だけでなく基準点の座標と整合した正確な位置を求める必要があることから、さらに開発と検証が必要となる。</p>